

項目	内容
名称	ボタンボウフウ [英]Peucedanum japonicum [学名]Peucedanum japonicum Thunb.
概要	ボタンボウフウは、東アジアの亜熱帯から暖温帯地域にみられるセリ科の多年草である。沖縄では「長命草」「サクナ」とも呼ばれ、葉を食用とする。
法規・制度	<b>■ 食薬区分</b> ・ボタンボウフウ ( <i>Peucedanum japonicum</i> ) 茎、葉、根、根茎：「医薬品的効能効果を標ぼうしない限り医薬品と判断しない成分本質 (原材料)」に該当する。
成分の特性・品質	
主な成分・性質	・根には、クマリン誘導体のベルガブテン、ハマウドール、ペウケダノール、ジイソワレリルケラクトン、ジセネシオイルケラクトン、アセチルセネシオケラクトンなどを含む (29)。 ・葉および茎には、β-カロテン、ルテイン、クロロフィル、ポリフェノール、ビタミンCを含む (102)。
分析法	・根から抽出したクマリンおよびシクリトールをクロマトグラフィー法にて分析した報告がある ( <a href="#">PMID:15646792</a> )。 ・葉および茎の凍結乾燥粉末から抽出したフェノール類を、HPLC法にて分析した報告がある ( <a href="#">PMID:22277893</a> )。
	有効性

循環器・呼吸器	調べた文献の中に見当たらない。	
消化系・肝臓	調べた文献の中に見当たらない。	
糖尿病・内分泌	<b>RCT</b> ・健康な成人23名 (平均39.4±9.7歳、日本) を対象とした二重盲検クロスオーバー無作為化プラセボ対照試験において、ボタンボウフウ葉粉末1 g (クロロゲン酸1.68 g含有) の後に負荷食 (白飯) 200 gを摂取させたところ、糖代謝マーカー (摂取後120分の血糖、インスリン、血糖AUC、血糖Cmax) 上昇の抑制が認められた (2018000652) 。	
ヒトでの評価	生殖・泌尿器	調べた文献の中に見当たらない。
	脳・神経・感覚器	調べた文献の中に見当たらない。
	免疫・がん・炎症	調べた文献の中に見当たらない。
	骨・筋肉	調べた文献の中に見当たらない。
	発育・成長	調べた文献の中に見当たらない。
	肥満	調べた文献の中に見当たらない。
	その他	調べた文献の中に見当たらない。
	参考文献	(22) メディカルハーブ安全性ハンドブック 第2版 東京堂出版 林真一郎ら 監訳 (29) 牧野和漢薬草大図鑑 北隆館 (30) 「医薬品の範囲に関する基準」 (別添2、別添3、一部改正について) (34) 有用植物和・英・学名便覧 北海道大学図書刊行会 由田宏一 (35) 新分類 牧野日本植物図鑑 北隆館 <a href="#">(PMID:15646792) Arch Pharm Res. 2004 Dec;27(12):1207-10.</a> <a href="#">(PMID:22277893) J Oleo Sci. 2012;61(2):89-101.</a> (101) 日本食品科学工学会誌. 2012;59(10):509-14. (102) 日本食品科学工学会誌. 2011;58(3):105-12. (2018000652) 薬理と治療. 2017;45(4):627-34.